

# 令和4年度全国学力・学習状況調査 の結果について

## 全国学力・学習状況調査について

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査実施日

令和4年4月19日（火）

### 3 調査の対象

- ・小学校6年生：国語・算数・理科・質問紙調査
- ・中学校3年生：国語・数学・理科・質問紙調査

### 4 調査結果について

- ・個人票が学校から児童生徒に提供される



令和4年10月  
泉南市教育委員会

# 小学校の結果の概要

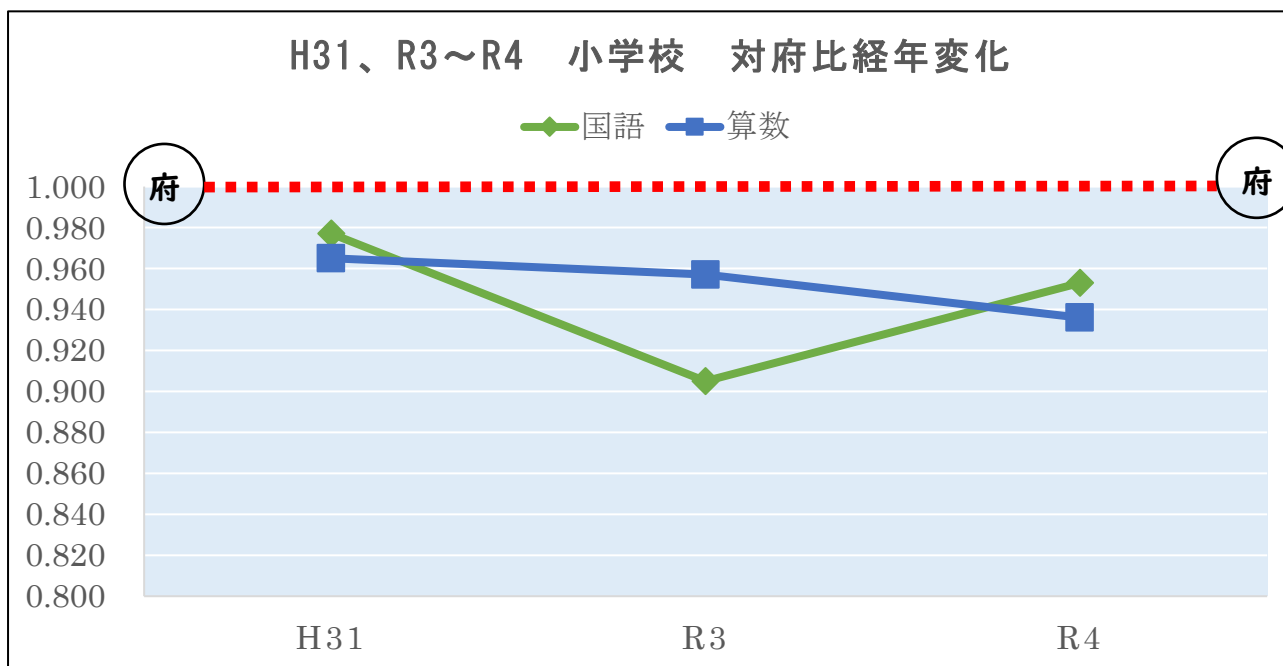
泉南市教育委員会

## 1. 経年変化の様子(H31、R3～R4) 対象学年は第6学年(R2は悉皆調査は実施されず)

正答率 (%)	国 語			算 数		
	H31	R3	R4	H31	R3	R4
泉南市	58.6	57	61	64.3	67	59
大阪府	60.0	63	64	66.6	70	63
全 国	63.8	64.7	65.6	66.6	70.2	63.2
対府比	0.977	0.905	0.953	0.965	0.957	0.936
対全国比	0.918	0.881	0.929	0.965	0.954	0.933

## 2. 経年変化のグラフ(H31、R3～R4)

\*折れ線グラフは、大阪府の平均正答率を「1」とした時の泉南市の平均正答率の推移



\*年度によって問題の難易度が違うので、対府比という形で表している。

## 3. 考察

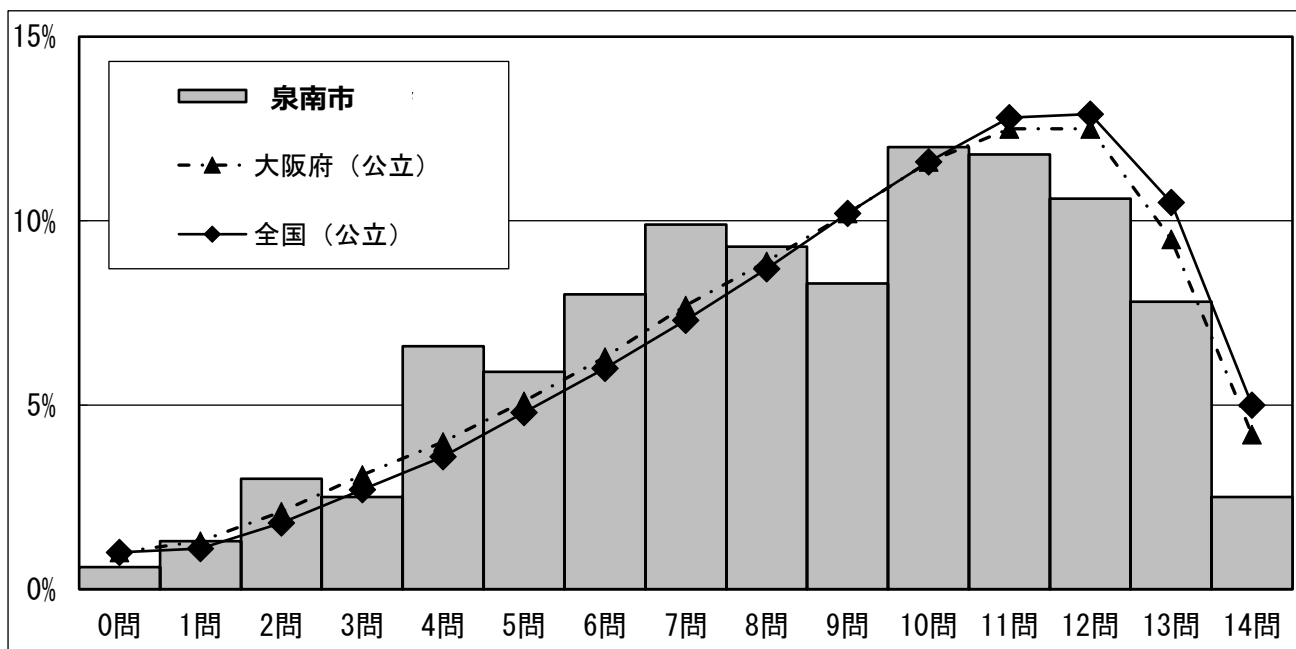
国語科は、昨年度に比べて本市正答率が対府比に近づいた。ただし、H31年度に比べると数値は低いので、このように年度ごとの大きな変化ではなく、安定して対府比に近づく(超える)ことが大切ではないか。

算数科は、正答率も対府比も大幅に下がった。しかし、全国・大阪府も大幅に下がったことを考えると、問題の難易度が高かったことが分かる。また、プログラミング的思考を活用した問題も出されており、2020年に改訂された学習指導要領の内容の定着を今後も図っていく必要がある。

小学校  
国語

○平均正答率は61%で、全国との比較では4.6ポイント、大阪府との比較では3ポイント下回っている。12問でピークとなる全国や府の正答数に対し、本市は4問、7問、10問で3つのピークとなる傾向がみられた。

1 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			対府比	
			本市	大阪府	全国		
全体		14	61	64	65.6	0.953	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	63.8	67.5	69.0	0.945
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	72.3	74.2	77.9	0.974
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	61.5	64.4	66.2	0.954
		B 書くこと	2	42.7	46.0	48.5	0.928
		C 読むこと	4	62.4	65.9	66.6	0.946
評価の観点	知識・技能	6	65.2	68.6	70.5	0.950	
	思考・判断・表現	8	57.2	60.5	62.0	0.945	
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	8	68.3	70.4	71.8	0.970	
	短答式	3	56.4	61.7	63.6	0.914	
	記述式	3	44.5	49.4	51.3	0.900	

問題 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	本 市	大 阪 府	全 国	本 市	大 阪 府	全 国
1一	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	○			<u>79.1</u>	84.0	<u>85.5</u>	0.2	0.9	0.9
1二	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	○			<u>70.8</u>	68.4	68.8	0.8	1.0	1.0
1三	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉える	○			<u>82.5</u>	84.3	<u>84.7</u>	0.4	1.0	1.0
1四	互いの立場や意図を明確にしなが ら計画的に話し合い、自分の考え をまとめる			○	40.4	44.4	47.7	2.5	3.6	3.0
2一 (1)	登場人物の行動や気持ちなどにつ いて、叙述を基に捉える	○			64.7	67.2	68.4	0.2	0.9	1.0
2一 (2)	登場人物の相互関係について、描 写を基に捉える	○			67.2	70.2	<u>70.6</u>	1.5	1.6	1.6
2二	人物像や物語の全体像を具体的に 想像する			○	60.9	68.0	68.3	12.3	12.5	12.2
2三	表現の効果を考える	○			56.7	58.1	59.2	2.1	3.1	3.2
3一	文章全体の構成や書き表し方など に着目して、文や文章を整える	○			53.1	56.3	59.2	2.5	2.7	2.5
3二	文章に対する感想や意見を伝え合 い、自分の文章のよいところを見 付ける			○	32.3	35.8	37.7	<u>16.3</u>	15.3	14.5
3三ア	学年別漢字配当表に示されている 漢字を文の中で正しく使う		○		63.0	63.5	65.2	7.6	8.4	8.1
3三イ			○		49.7	56.2	58.7	9.7	10.3	10.2
3三ウ			○		56.5	65.4	67.1	14.2	14.7	14.7
3四	漢字や仮名の大きさ、配列に注意 して書く	○			<u>72.3</u>	74.2	<u>77.9</u>	<u>6.6</u>	6.2	5.9

※下線部(通過率) …全国で正答率が70%以上の正答率で、本市も70%を超えているもの

#### 【考察】

- 平均正答率は、本市が61%と府平均の64%より3ポイント下回った。区分別でみると「A話すこと」で2.9ポイント、「B書くこと」で3.3ポイント、「C読むこと」で3.5ポイントと府平均を下回る結果となり、思考力、判断力、表現力等の課題が見られた。また、問題形式の短答式(漢字)で5.3ポイント、記述式で4.9ポイントと府平均を下回った。
- 無解答率は、府・全国の割合に比べ、本市では少なかった。
- 1二の「言葉の使い方」では、本市は全国平均を上回った。
- 通過率は、4問中3問であり75%が通過できている。
- 選択式の設問では、対府比が比較的高い。
- 本市では、基礎基本の定着を図ることを第一に取り組んできた。引き続き、各校において、「言葉のちから」等を活用した言語学習を必要とするものとするものとする。漢字を書きとる問いの正答率が府・全国に比べ低いことから、家庭学習において機械的にドリルを視写するだけでなく、個別最適化の観点から様々な学習方法を提示することも必要ではないか。
- 記述式問題に対しても日頃の学習指導の中から自分の意見や考えを「書く」場面を設定することが必要ではないか。

【課題の見られた設問】

◆問題番号【3三ウ】

次の――部ウを漢字でていねいに書きましょう。

運動が苦手な人もウしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいしたいです。

(←)「親(おや)」と「親(した)しい」の2つの訓読みがあることを理解できていないのではないか。普段の生活の中で触れることの少ない読みとも考えられる。

◆問題番号【2二】

二 森田さんは、物語から伝わってくることをまとめ、すいせんする文章を書いています。次は、【森田さんの文章】です。あなたが森田さんなら、Aに入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【森田さんの文章】

これは、過去や未来にいけるうちゅう船を作りたいと思っている「ぼく」と、そんなうちゅう船を作った「老人」の物語です。

この物語は、「老人」が未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現をさがして読む楽しさを味わうことができます。それだけでなく、この物語を読むと、わたしは前向きな気持ちになります。なぜかという、「老人」に出会った「ぼく」を通して、この物語がわたしに伝えてくれることがあるからです。それは、A

○ ○ この物語から伝わってくることを考えて書くこと。  
○ 十字以上、三十字以内にまとめて書くこと。

(↑) 2つの条件が設けられているが、どちらか一方の条件しか満たしていない解答も見られた。解答を再度、推敲する必要がある。

【成果の見られた設問】

◆問題番号【1二】

二 【話し合いの様子の一部】で、谷原さんや中村さんが、——部イや——部エのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 友達の意見に質問し、みんなの意見を一つにまとめるため。
- 2 友達の意見に質問し、認め合いながら話を進めるため。
- 3 友達の意見のよさを伝え、みんなの意見を一つにまとめるため。
- 4 友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話を進めるため。

◆問題番号【1三】

三 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんの発言に対して、——部ウのように質問し、知りたかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

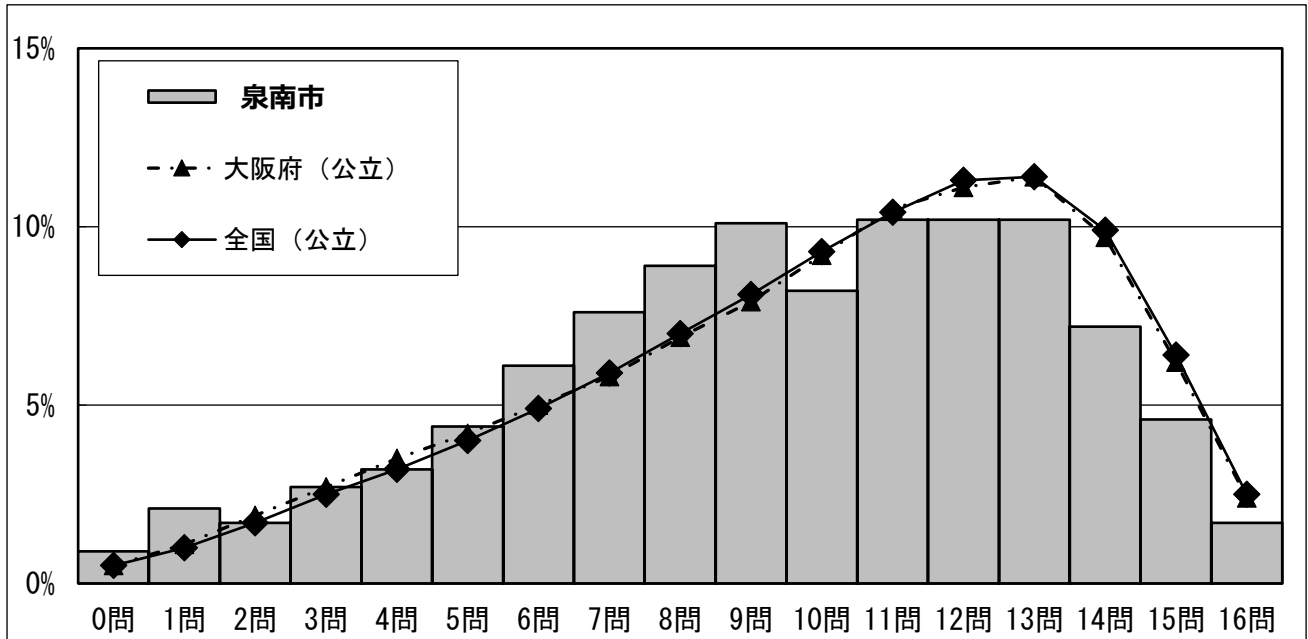
- 1 ペンキをぬり直すことが、公園の遊具で遊べることにつながる理由
- 2 ペンキをぬり直すことが、自分たちではできないことにつながる理由
- 3 ペンキをぬり直すことが、公園をきれいにすることにつながる理由
- 4 ペンキをぬり直すことが、ごみのない公園になることにつながる理由

(↑) 両問とも「話し合いの様子の一部」から考察する設問である。普段の学習指導から対話的な活動を多く取り入れることで、話し合いの中での言葉のつながりや要点を整理する力(知識・技能)が定着しているのではないか。今後も、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習指導の計画を立てていくことが重要である。

# 小学校 算数

○平均正答率は59%で、全国との比較では4.2ポイント、大阪府との比較では4ポイント下回っている。13問でピークとなる全国や府の正答数に対し、本市は1問、9問、11～13問の3か所で正答数がピークとなる傾向がみられた。

1 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体		16	59	63	63.2	0.936
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	65.5	69.1	69.8	0.947
	B 図形	4	58.8	62.9	64.0	0.934
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	48.0	51.2	51.3	0.937
	D データの活用	3	65.7	68.7	68.7	0.956
評価の観点	知識・技能	9	63.9	67.9	68.2	0.941
	思考・判断・表現	7	53.0	55.7	56.7	0.951
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	48.3	51.3	51.8	0.941
	短答式	6	72.0	76.2	76.5	0.944
	記述式	4	56.3	59.0	60.2	0.954

問題 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	本 市	大 阪 府	全 国	本 市	大 阪 府	全 国
1(1)	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる		○		<u>93.2</u>	92.3	<u>92.4</u>	0.2	0.4	0.3
1(2)	二つの数の最小公倍数を求めることができる		○		61.7	71.1	<u>72.2</u>	<u>4.4</u>	3.0	3.0
1(3)	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる			○	<u>72.7</u>	73.8	<u>76.0</u>	<u>6.5</u>	5.6	5.2
1(4)	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	○			32.8	34.8	34.8	<u>1.3</u>	0.9	0.9
2(1)	百分率で表された割合を分数で表すことができる		○		63.6	69.3	<u>71.1</u>	<u>5.1</u>	4.2	3.9
2(2)	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる		○		63.9	66.4	64.6	<u>4.4</u>	3.3	3.3
2(3)	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	○			18.6	21.3	21.4	<u>1.5</u>	1.1	1.1
2(4)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる			○	45.9	47.7	48.0	<u>6.1</u>	5.4	5.5
3(1)	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる		○		<u>70.2</u>	76.0	<u>75.3</u>	<u>2.3</u>	2.2	2.1
3(2)	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	○			60.9	63.2	63.9	<u>1.9</u>	1.6	1.6
3(3)	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	○			65.8	66.8	66.8	2.3	2.4	2.2
3(4)	加法と乗法の混合した $\pi$ °イット数の求め方を解釈し、ほかの場合の $\pi$ °イット数の求め方と答えを記述できる			○	62.2	66.7	67.7	<u>9.1</u>	8.7	8.6
4(1)	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる			○	44.2	47.9	48.8	4.0	4.1	3.8
4(2)	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している		○		<u>79.3</u>	81.7	<u>83.2</u>	<u>6.8</u>	5.1	4.7
4(3)	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	○			59.0	65.8	66.5	<u>5.9</u>	4.8	4.6
4(4)	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	○			52.6	56.1	57.6	<u>6.5</u>	5.2	5.1

※下線部(通過率) …全国で正答率が70%以上の正答率で、本市も70%を超えているもの




【考察】

- 平均正答率は、本市が 59%、府が 63%で府平均よりも 4 ポイント下回っている。
- 通過率は、6 問中 4 問 (66.6%) となっている。
- 「知識・技能」を問う問題では、市が 63.9%、府が 67.9%で、府平均を 4 ポイント下回っており、「思考・判断・表現」よりも差が大きい傾向がみられた。
- 無解答率は、16 問中 13 問が府や全国を上回っている。
- 1 (2)の最小公倍数を求める問題では、正答率が府よりも 10 ポイント下回り、知識・技能の確実な習得が必要である。
- 数に関する感覚を豊かにするためにも、低学年の間に高学年の学習内容を系統的に把握した上で授業を組み立てることが重要である。
- 「図形」の領域で、正答率が低いことから、系統性を理解して授業づくりを行うことが重要である。
- 記述式の設問は、対府比が比較的高い傾向が見られた。これは、算数科の学習指導において、答えを導くまでの過程を大事にしている成果であると考えている。

【課題の見られた設問】

◆問題番号

【1 (2)】



カップケーキの個数を、14 と 21 の最小公倍数にそろえて考えます。

14 と 21 の最小公倍数を書きましょう。

\* 14 と 21 の数から、最大公約数の「7」と誤答していることが考えられる。

◆問題番号【4 (3)】

ひし形をかくことができるプログラムはどれですか。

右の **ア** から **エ** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

<p><b>ア</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> </div>	<p><b>イ</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 135° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> </div>	<p><b>ウ</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>3 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>3 cm の直線を引く。</p> </div>	<p><b>エ</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 135° 回転する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5 cm の直線を引く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>左に 45° 回転する。</p> </div>
---	--	---	---

\* プログラミング的思考を問われており、ひし形の定義や性質について理解を深める必要がある。

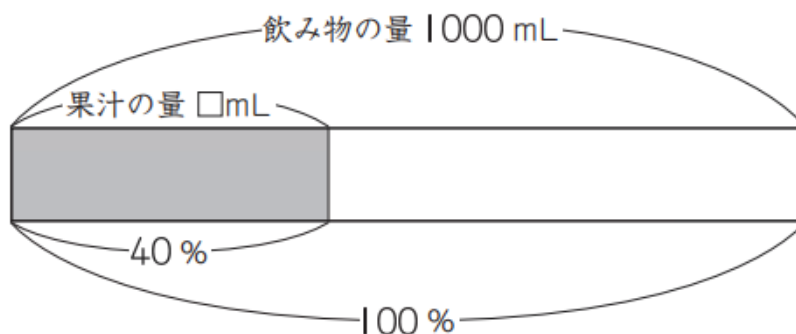
【成果の見られた設問】

◆問題番号【1 (1)】

- (1) ゆうさんは、Aセットを4箱買うことにしました。  
Aセット4箱分の代金を求める式は、 $1050 \times 4$ です。  
 $1050 \times 4$ を計算しましょう。

◆問題番号【2 (2)】

- (2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。  
この飲み物1000 mLには、果汁が何 mL入っていますか。  
答えを書きましょう。



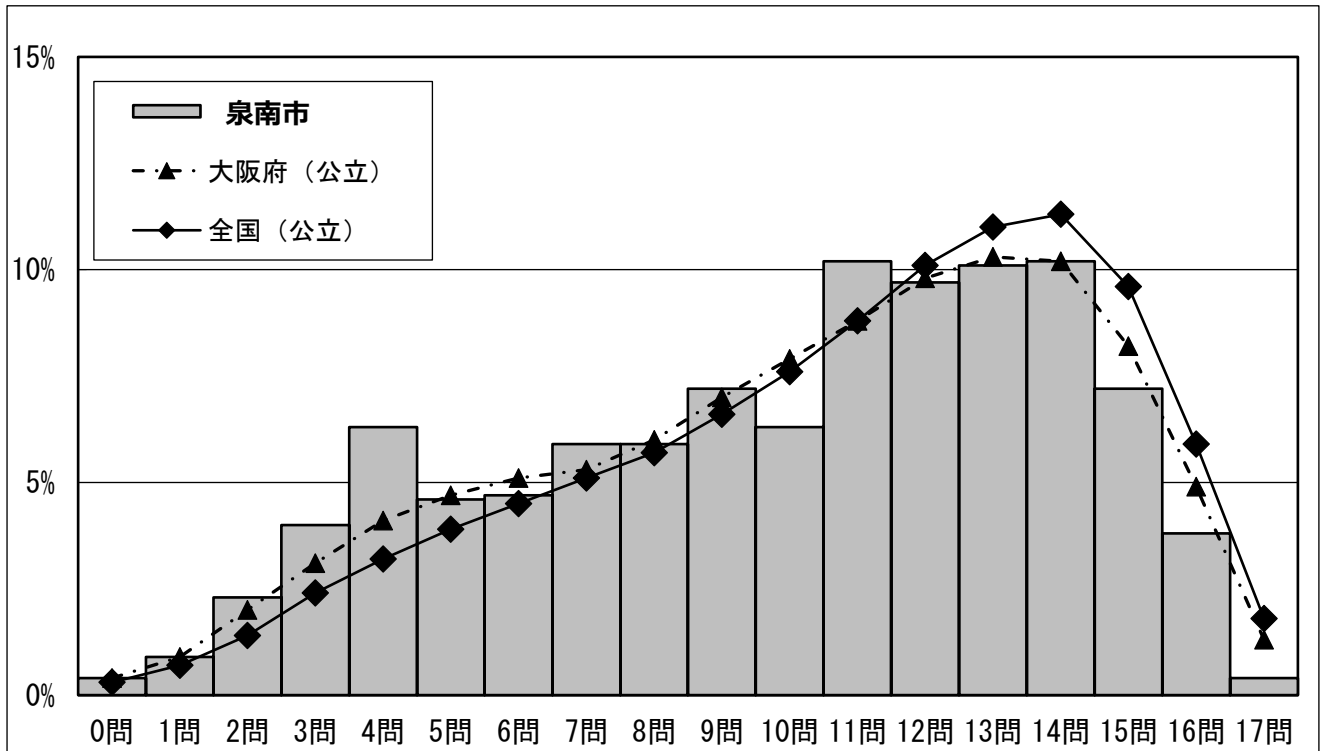
(↑) 計算の知識・技能の定着 (正答率 93.2%) が見られた。今後は、この知識・技能を生かして、思考力・判断力・表現力等を育むことが求められる。

求式に必要な数直線や線分図等が学習指導の中で大切にされているのが分かる。今後も求式、求答だけでなくその過程に焦点を当てたい。

# 小学校 理科

○平均正答率は58%で、全国との比較では5.3ポイント、大阪府との比較では2ポイント下回っている。13問や14問でピークとなる全国や府の正答数に対し、本市は4問、9問、11問の3か所でピークとなる傾向がみられた。

1 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			対府比	
			本市	大阪府	全国		
全体		17	58	60	63.3	0.966	
学習指導 要領の 区分・ 領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.7	49.0	51.6	0.993
		「粒子」を柱とする領域	5	51.2	56.8	60.4	0.901
	B 区分	「生命」を柱とする領域	5	71.2	72.3	75.0	0.984
		「地球」を柱とする領域	5	59.9	61.0	64.6	0.981
評価の観点	知識・技能		6	55.9	59.5	62.5	0.939
	思考・判断・表現		11	59.3	60.9	63.7	0.973
	主体的に学習に取り組む態度		0				
問題形式	選択式		11	62.6	64.5	66.8	0.970
	短答式		3	56.3	61.4	66.2	0.916
	記述式		3	43.4	44.3	47.3	0.979

問題 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	本 市	大 阪 府	全 国	本 市	大 阪 府	全 国
1(1)	問題を解決するために必要な観察の視点を 基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、 自分の考えをもつことができる	○			<u>87.9</u>	91.1	<u>92.9</u>	0.0	0.2	0.2
1(2)	自分で行った観察で収集した情報と追加さ れた情報を基に、問題に対するまとめを検討 して、改善し、自分の考えをもち、その内容 を記述できる			○	63.4	64.1	67.5	5.9	6.1	5.0
1(3)	昆虫の体のつくりを理解している	○			<u>73.2</u>	71.4	<u>73.1</u>	0.2	0.3	0.3
1(4)	提示された情報を、複数の視点で分析して、 解釈し、自分の考えをもつことができる	○			<u>70.2</u>	73.4	<u>76.1</u>	<u>0.9</u>	0.7	0.7
1(5)	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点 で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと ができる	○			61.5	61.6	65.5	<u>2.1</u>	1.7	1.4
2(1)	メスシリンダーという器具を理解している		○		50.3	64.1	67.8	<u>14.2</u>	10.8	9.8
2(2)	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付け ている	○			63.2	69.6	<u>70.0</u>	<u>1.1</u>	0.7	0.6
2(3)	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、 問題に対するまとめを検討して、改善し、自 分の考えをもつことができる	○			56.4	60.0	62.8	<u>1.1</u>	1.1	1.0
2(4)	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気 付きの視点で分析して、解釈し、自分の考え をもち、その内容を記述できる			○	32.8	36.3	39.3	<u>12.1</u>	10.2	8.7
3(1)	日光は直進することを理解している	○			26.8	26.1	27.8	<u>0.8</u>	0.6	0.6
3(2)	問題に対するまとめを導きだすことができ るように、実験の過程や得られた結果を適切 に記録している	○			68.7	71.5	<u>74.4</u>	0.6	1.5	1.3
3(3)	自分で発想した実験の方法と、追加された情 報を基に、実験の方法を検討して、改善し、 自分の考えをもつことができる		○		65.5	65.9	68.9	5.5	6.1	5.1
3(4)	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、 解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述 できる			○	34.0	32.6	35.1	<u>13.1</u>	12.9	11.2
4(1)	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、 解釈し、自分の考えをもつことができる	○			<u>77.6</u>	80.2	<u>82.3</u>	1.1	1.2	1.0
4(2)	予想が確かめられた場合に得られる結果を 見通して、問題を解決するまでの道筋を構想 し、自分の考えをもつことができる	○			61.9	62.0	64.5	1.3	1.4	1.3
4(3)	観察などで得た結果を、結果からいえること の視点で分析して、解釈し、自分の考えをも つことができる	○			41.6	43.0	45.5	<u>7.8</u>	7.8	6.5
4(4)	水は水蒸気になって空気中に含まれている ことを理解している		○		53.1	54.1	62.0	6.6	7.3	6.2
1(1)	問題を解決するために必要な観察の視点を 基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、 自分の考えをもつことができる	○			<u>87.9</u>	91.1	<u>92.9</u>	0.0	0.2	0.2
1(2)	自分で行った観察で収集した情報と追加さ れた情報を基に、問題に対するまとめを検討 して、改善し、自分の考えをもち、その内容 を記述できる			○	63.4	64.1	67.5	5.9	6.1	5.0

※黄色下線部(通過率) …全国で正答率が70%以上の正答率で、本市も70%を超えているもの

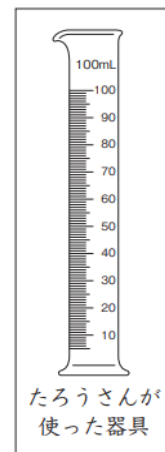
【考察】

- 平均正答率が、本市は 58%、府が 60%で府平均を 2 ポイント下回っている。
- 通過率は、6 問中 4 問 (66.6%) となっている。
- 「メスシリンダー」に関して、器具の名前が児童に定着していない。
- 国語や算数に比べると、対府比に近い水準である。
- 1(3)「昆虫の体のつくり」では、全国値を上回っている。
- 記述式の問題については、対府比に近い水準を示した。
- 今回の学力調査では、府や全国の正答率には及ばないが、国語や算数に比べると、対府比で近い水準となった。
- 課題としては、実験器具の名称、使い方において、府との正答率の差が大きかった。授業における実験等の際には、「なぜ、何のために、実験器具の正しい使用方法」を児童に考えさせた上で使用させることを心掛けたい。
- 今年度の問題の特徴としては、課題解決型の問いが多く見られた。日頃の授業において、これらのことを意識した学習指導にあたることが大切である。

【課題の見られた設問】

◆問題番号【2(1)】

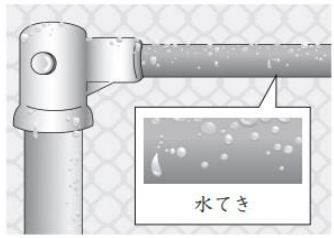
(1) たろうさんは、実験で使用する砂糖水と食塩水をつくるために、水 50 mL を右のような器具を使ってはかりとることにしました。  
たろうさんが使った器具の名前を書きましょう。



\* 実験を行う際には、器具の名称と正しい使用について理解することが大切である。

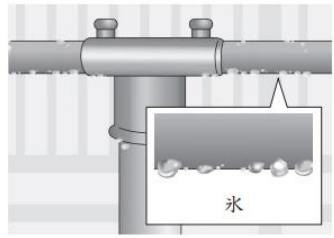
◆問題番号【4（4）】

鉄棒に水てきがついていたよ。



水てき

鉄棒に氷がついていたよ。



氷

よしさんは、2つの現象を調べて、次のようにまとめました。

□ にあてはまることばを書きましょう。

朝、鉄棒に、水てきや氷がついていた。気温が下がり、空気中の □ が冷やされて、水てきや、水てきになったあと氷になる現象が見られた。左の写真は「つゆ」、右の写真は「どうろ」というらしい。気温のちがいで、異なる現象が起こることがわかった。

\* 水が水蒸気となって空気中に含まれていることを理解することができていない。空気中という言葉から「気体」を想起する児童が多かったと思われる。生活経験の中から課題を見出すような学習展開が必要である。


【成果の見られた設問】

◆問題番号【1（3）】

(3) みどりさんは、ナナホシテントウがこん虫であることを説明しようとしています。こん虫であることを体のつくりから説明するために、どのような写真が必要ですか。下の 1 から 4 までの中から最も適切なものを1つ選んで、その番号を書きましょう。


1

上から



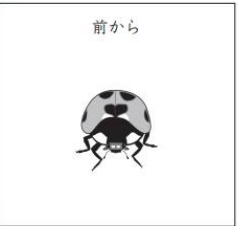
2

下から




3

前から



4

横から



\* (←) 昆虫の特徴である「頭、胸、腹」や「胸に3対6本のあし」を理解できている。普段から、複数の昆虫等に触れることができていないのではないか。また、タブレットも有効に使用できているのではないか。

◆問題番号【3（4）】

【結果】

		《かんの色による水の温度の変化》		
		時間	0分	20分後
かんの色	黒	24℃	28℃	32℃
	赤	24℃	27℃	29℃
	青	24℃	27℃	30℃
	白	24℃	25℃	26℃

【問題】に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

(4) はなさんが、下線部のようにまとめたわけを上【結果】を使って書きましょう。

\* 結果を求めるだけでなく、これらを分析し、根拠をもって説明することが大切である。(→)

# 中学校の結果の概要

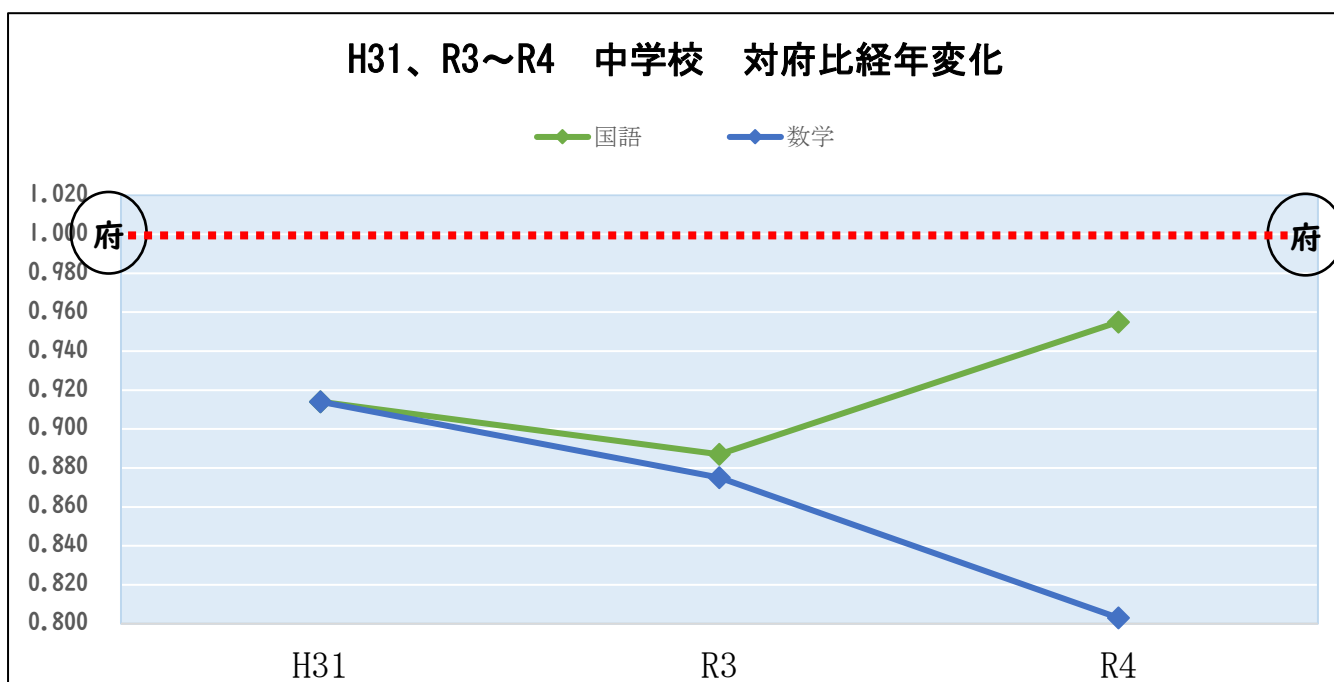
泉南市教育委員会

## 1. 経年変化の様子(H31、R3～R4) 対象学年は、中学3年生(R2は悉皆調査は実施されず)

正答率 (%)	国 語			数 学		
	H31	R3	R4	H31	R3	R4
泉南市	64	55	64	53	49	41
大阪府	70	62	67	58	56	51
全 国	72.8	64.6	69.0	59.8	57.2	51.4
対府比	0.914	0.887	0.955	0.913	0.875	0.803
対全国比	0.879	0.851	0.927	0.886	0.856	0.797

## 2. 経年変化のグラフ(H31、R3～R4)

\*折れ線グラフは、大阪府の平均正答率を「1」とした時の泉南市の平均正答率の推移



## 3. 考察

国語科は、昨年度よりも正答率が上がり、対府比に近づいた。大阪府、全国も正答率が高くなっており、問題の難易度が変化したと考えられるが、基礎的な知識・技能の定着が見られた。

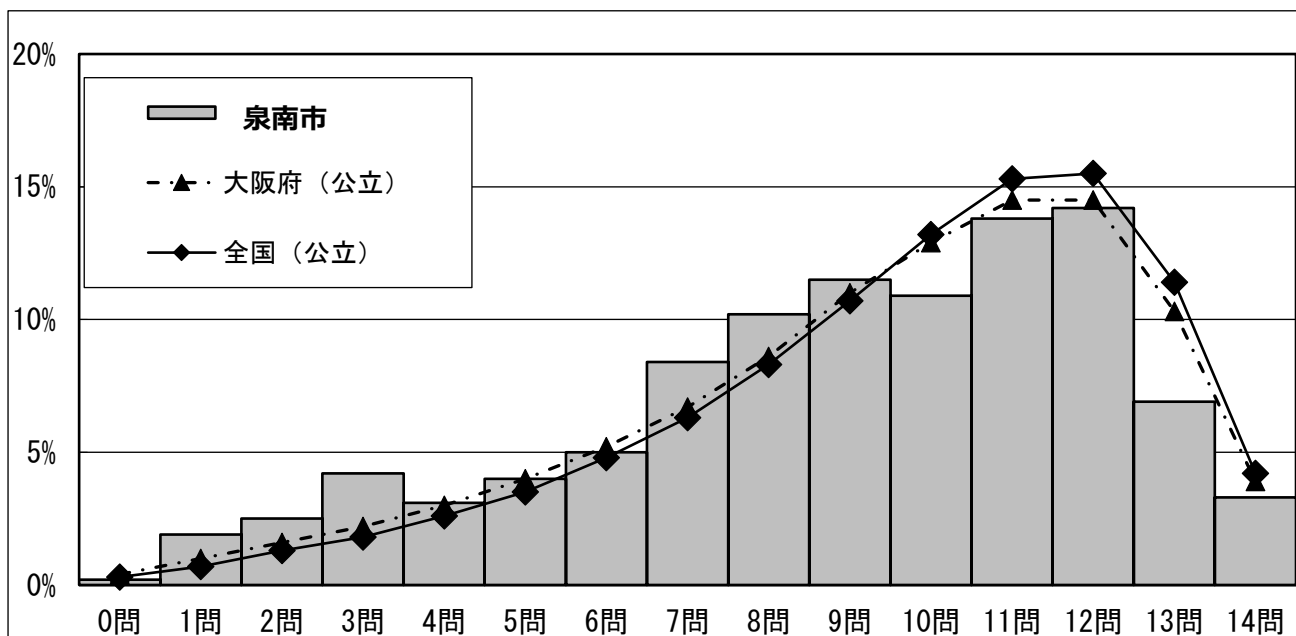
一方、数学科では、大きな課題が見られた。正答率では、昨年度より8ポイント下がり、対府比も大幅に下がった。小学校算数科では、「プログラミング的思考」が出題されたが、中学校数学科では「データの活用」が出題された。新学習指導要領の着実な実施が今後の課題だと考えられる。

特に、数学(算数)は、系統性の強い教科なので、小学校段階からの知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成が求められる。

中学校  
国語

○平均正答率は64%で、全国との比較では5.0ポイント、大阪府との比較では3ポイント下回っている。12問でピークとなる全国や府の正答数に対し、本市は3問、9問、12問で3つのピークとなる傾向がみられた。

1 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			対府比	
			本市	大阪府	全国		
全体		14	64	67	69.0	0.955	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	65.8	70.7	72.2	0.930
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	47.6	43.6	46.5	1.091
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	64.7	69.0	70.2	0.937
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.0	59.9	63.9	0.968
		B 書くこと	1	47.6	43.6	46.5	1.091
		C 読むこと	2	63.7	66.2	67.9	0.962
評価の観点	知識・技能	10	63.7	67.5	69.0	0.943	
	思考・判断・表現	6	58.2	59.3	62.3	0.981	
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	6	68.3	72.1	73.7	0.947	
	短答式	5	63.8	69.6	70.3	0.916	
	記述式	3	54.5	53.5	57.4	1.018	



問題 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	本 市	大 阪 府	全 国	本 市	大 阪 府	全 国
1一	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する		○		68.7	73.1	<u>74.7</u>	8.4	5.4	3.8
1二	論理の展開などに注意して聞く	○			59.5	60.5	65.1	0.2	0.2	0.1
1三	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す			○	45.9	46.0	51.8	<u>23.2</u>	21.4	16.2
2一	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	○			<u>80.0</u>	81.0	<u>82.3</u>	0.4	0.3	0.2
2二①	文脈に即して漢字を正しく書く		○		<u>74.7</u>	79.7	<u>82.1</u>	14.6	10.5	8.8
2二②			○		<u>76.6</u>	80.3	<u>80.5</u>	5.2	4.0	3.3
2三	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く			○	47.6	43.6	46.5	13.6	12.1	9.0
3一	表現の技法について理解する		○		41.8	53.2	52.5	0.8	0.7	0.7
3二	事象や行為、心情を表す語句について理解する	○			<u>76.0</u>	84.3	<u>84.0</u>	0.2	0.3	0.3
3三	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える		○		57.4	61.5	62.0	2.3	1.3	1.0
3四	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する			○	69.9	70.8	<u>73.8</u>	17.3	16.0	13.3
4一	行書の特徴を理解する	○			31.7	37.0	39.4	0.4	0.6	0.9
4二	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	○			<u>87.3</u>	90.5	<u>90.1</u>	0.4	0.6	1.0
4三	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	○			<u>75.2</u>	79.4	<u>81.1</u>	0.6	0.7	1.1

※下線部(通過率) …全国で正答率が70%以上の正答率で、本市も70%を超えているもの

#### 【考察】

- 通過率は、8問中6問で75%である。
- 通過はしているが、府・全国平均とは差が大きい。
- 表現の技法で、10ポイント以上の差がみられる。
- 対府比で上回る領域が3つある。記述式も上回っている。
- 対府比が比較的高い。
- 記述式の設問で、全国を上回る設問もあり、ここ数年「書く力」の育成に努めてきた結果が表れているのではないかと。一方で、表現の技法を問われる問題では府・全国を10ポイント以上下回っており、小学校同様「言語」への指導も必要ではないかと。
- 対府比は比較的高い傾向がみられるが、通過率は75%なのでこの割合を高めていくことが今後の課題としたい。

【課題の見られた設問】

◆問題番号【3一、3二】

一 ― 線部①「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい(漢字、ひらがなのどちらでもよい)。(。)(。)(。)

また、それと同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 〰 線部②「ただ、と、おれは思う。」

2 〰 線部④「ブルーシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で涼む人。」

3 〰 線部⑦「猫のように素早く手を出し」

4 〰 線部⑩「もっともっと前の話だと説明する。」

二 ― 線部②「途方に暮れた」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 どうしてよいか分からなくなった

2 同じことを繰り返し返していた

3 なつかしくなった

4 夜になったことに気付いた

(↑) 同じ表現の技法が用いられているものを選ぶことはできているが、その技法の名称(比喩)を答えることができていないと考えられる。

比喩や体言止め等の名称を理解するとともに、話や文章の中で使うことも大切である。

【成果のみられた設問】

◆問題番号【2一、2三】

一 小林さんは、【意見文の下書き】の~~~~線部の文末を「自動化したそうだ」に直すことになりました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 祖父母が否定している内容であることを明確にしようとした。
- 2 祖父母の話から推測した内容であることを明確にしようとした。
- 3 祖父母が希望している内容であることを明確にしようとした。
- 4 祖父母から聞いた内容であることを明確にしようとした。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かぎかっこ「」でくくること。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

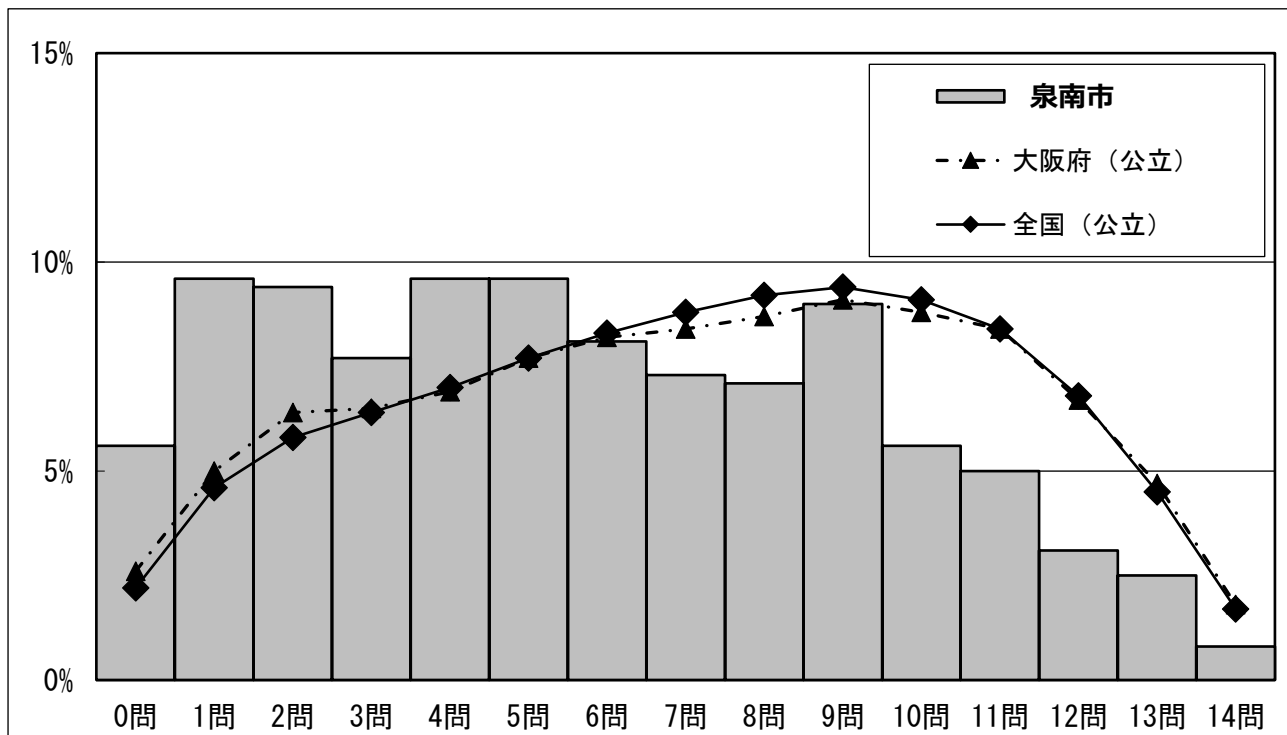
（↑）課題としていた「条件に合わせて書く」で全国の正答率を上回った。「一」の設問でも成果が見られたように、助詞や助動詞の働きを理解できているので適切な文章を書くことができているのではないか。

今後も「自分の考えを書く」等の学習活動を通して、表現力を育成していくことが大切である。

中学校  
数学

○平均正答率は41%で、全国との比較では10.4ポイント、大阪府との比較では10ポイント下回っている。全国や府の正答数は、9問でピークとなることに対し、本市は1問、4～5問、9問で3つのピークとなっている傾向がみられた。

1 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体		14	41	51	51.4	0.803
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	42.9	56.7	57.4	0.756
	B 図形	3	33.5	43.2	43.6	0.775
	C 関数	3	35.3	43.8	43.6	0.805
	D データの活用	3	48.9	55.4	57.1	0.882
評価の観点	知識・技能	9	47.2	59.3	59.9	0.795
	思考・判断・表現	5	28.6	35.4	36.2	0.807
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	4	43.2	51.4	52.6	0.840
	短答式	5	50.3	65.6	65.7	0.766
	記述式	5	28.6	35.4	36.2	0.807

問題 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	本 市	大 阪 府	全 国	本 市	大 阪 府	全 国
1	自然数を素数の積で表すことができる		○		27.1	52.9	52.2	21.9	11.6	11.5
2	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる		○		58.5	74.3	74.5	13.8	6.8	6.1
3	反例の意味を理解している	○			34.2	43.5	44.9	0.4	0.4	0.4
4	一次関数の変化の割合の意味を理解している	○			28.8	39.7	37.9	0.0	0.3	0.4
5	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	○			79.2	81.5	83.3	0.0	0.3	0.3
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる		○		63.5	73.4	73.8	9.4	7.2	6.0
6 (2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	34.4	47.0	48.7	31.5	23.4	20.0
6 (3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる			○	30.8	36.0	37.6	34.6	29.3	26.2
7 (1)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○	36.7	43.7	44.0	2.1	1.8	1.4
7 (2)	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	○			30.8	40.9	44.1	0.8	0.7	0.7
8 (1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		○		44.2	54.8	54.6	11.0	8.4	7.2
8 (2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○	33.1	36.7	38.4	31.5	28.4	24.4
9 (1)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		○		58.3	72.6	73.2	14.0	8.8	7.5
9 (2)	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	8.1	13.4	12.5	47.1	42.4	38.5

※下線部(通過率) …全国で正答率が70%以上の正答率で、本市も70%を超えているもの

【考察】

- 自然数を素数の積で表す問題では、府や全国の平均を 25 ポイント下回っている。
- 「A 数と式」領域において、対府比が低い。
- 通過率は、4 問中 1 問と 25%である。
- 無解答率が多く設問において、府や全国を上回っている。
- 「D データの活用」領域が、対府比で比較的高い。
- 国語に比べると非常に課題点が多く見られる。特に「数と式」領域の結果を見ると、基礎基本の定着が図れていないのが分かる。数学科の特性を考えると小学校段階からの積み上げが必要である。記述式での無解答率の高さを考えると、「書く力」ではなく、知識・技能の定着が必要である。小中の教員で連携を図ることも必要ではないか。

【課題の見られた設問】

◆問題番号【1】

1 42 を素因数分解しなさい。

◆問題番号【2】

2 連立方程式  $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$  を解きなさい。

(↑)「素数」や「積」といった算数科で学習する内容の定着が必要である。整数についての理解を深めることができるような指導が必要である。

◆問題番号【9 (2)】

**証明**

△ABEと△CFBにおいて、  
正三角形の3つの辺はすべて等しいから、  
EA = AD  
長方形の向かい合う辺は等しいから、  
AD = BC  
よって、EA = BC ……①  
同じようにして、  
AB = CF ……②  
また、正三角形の1つの内角は60°であり、長方形の1つの内角は90°であるから、  
∠EAB = 60° + 90° = 150° ……③  
∠BCF = 90° + 60° = 150° ……④  
③、④より、  
∠EAB = ∠BCF ……⑤  
①、②、⑤より、 がそれぞれ等しいから、  
△ABE ≅ △CFB  
合同な図形の対応する辺は等しいから、  
EB = BF

上の証明の  に当てはまる言葉を書きなさい。

三角形の合同条件について理解する必要がある。(↑)  
証明のように順序だてて説明するような学習機会も確保することが大切である。

【成果の見られた設問】

◆問題番号【5】

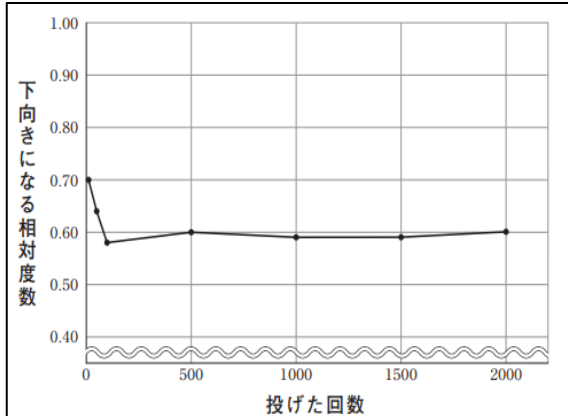
5 右の図はある容器のふたです。このふたを多数回くり返し投げたとき、どのくらいの割合で下向きになるかを調べました。



次の表は、このふたを投げたときの下向きになった回数を記録し、下向きになる相対度数を求め、小数第3位を四捨五入してまとめたものです。

投げた回数	下向きになった回数	下向きになる相対度数
10	7	0.70
50	32	0.64
100	58	0.58
500	299	0.60
1000	589	0.59
1500	889	0.59
2000	1190	0.60

この表をもとに、下向きになる相対度数について次の折れ線グラフに表しました。



前ページの表や折れ線グラフから、下向きになる確率がどのくらいであるかはいえます。その確率として正しいものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

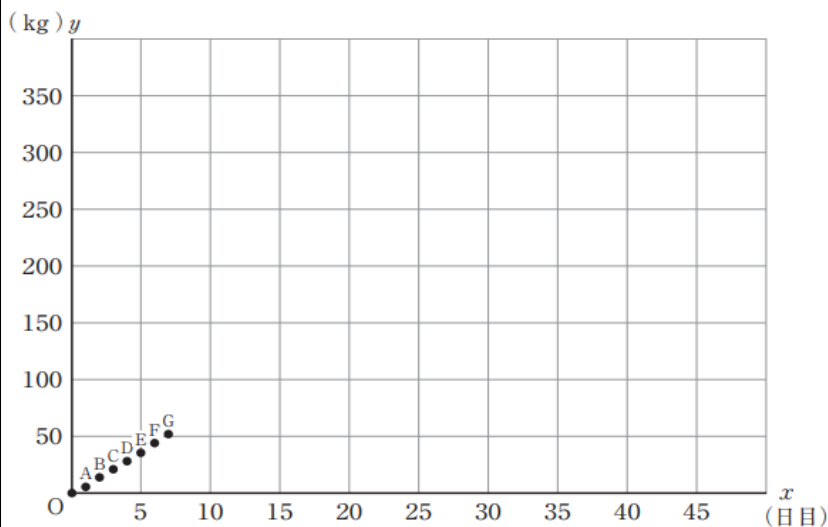
- ア およそ0.5
- イ およそ0.6
- ウ およそ0.7
- エ およそ1.0

◆問題番号【8 (2)】

(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ



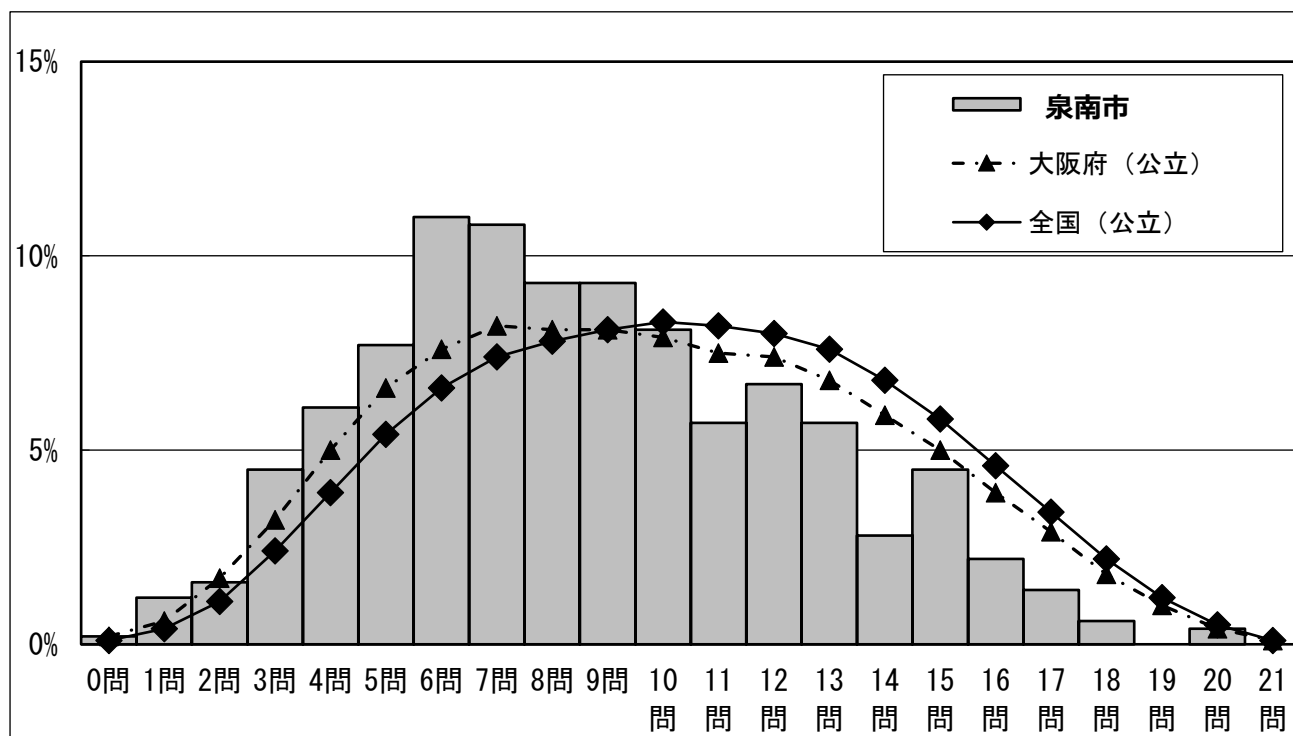
このとき、目標の300 kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。

- 正答率は33.1%だが、記述式の対府比では比較的高い設問である。
- 数学科でも求答だけに焦点を当てるのではなく、求答に至るまでの過程にも焦点を当てて指導することが大切である。

# 中学校 理科

○平均正答率は41%で、全国との比較では8.3ポイント、大阪府との比較では6ポイント下回っている。全国の正答数は10問で、府の正答数は7問でピークになっている。本市は6問でピークが見られ、11問以降は府や全国の正答率を下回る傾向がみられた。

1 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率(%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体		21	41	47	49.3	0.872
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	35.0	38.9	41.9	0.899
	「粒子」を柱とする領域	5	41.9	48.7	50.9	0.860
	「生命」を柱とする領域	5	48.0	53.2	57.9	0.902
	「地球」を柱とする領域	6	37.9	42.8	44.3	0.885
評価の観点	知識・技能	7	38.7	44.1	46.1	0.877
	思考・判断・表現	14	42.5	47.8	51.0	0.889
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	15	42.1	47.6	49.6	0.884
	短答式	1	21.7	22.0	24.8	0.986
	記述式	5	42.4	48.3	53.5	0.877



問題 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選択 式	短答 式	記述 式	本 市	大 阪 府	全 国	本 市	大 阪 府	全 国
1 (1)	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	○			41.1	41.2	44.2	0.0	0.1	0.1
1 (2)	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	○			67.9	75.5	78.5	0.2	0.2	0.1
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	○			45.5	52.4	54.2	0.0	0.2	0.2
2 (2)	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	○			40.7	41.0	40.8	0.2	0.3	0.3
2 (3)	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	○			24.2	27.2	28.5	0.4	0.4	0.3
3 (1)	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	○			65.9	77.7	80.1	0.6	0.2	0.1
3 (2)	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	○			54.1	59.4	60.2	0.4	0.3	0.3
3 (3)	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる		○		21.7	22.0	24.8	8.1	6.0	4.3
4 (1)	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる			○	64.8	70.0	74.5	10.2	7.9	5.5
4 (2)	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	○			58.9	62.0	65.6	0.4	0.3	0.2

5 (1)	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	○			10.0	13.8	15.3	0.4	0.3	0.2
5 (2)	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	○			38.6	43.5	45.0	0.4	0.5	0.4
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる			○	30.7	37.5	43.3	42.7	36.3	29.4
6 (1)	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	○			43.9	46.0	48.0	0.4	0.4	0.3
6 (2)	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	○			51.0	57.6	60.3	0.8	0.6	0.6
6 (3)	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	○			22.4	32.5	34.2	0.8	0.7	0.7
7 (1)	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	○			26.0	34.0	35.9	0.8	0.5	0.4
7 (2)	実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	○			41.9	50.4	53.4	1.8	1.1	1.0
8 (1)	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる			○	45.3	49.0	55.2	19.3	16.3	11.6
8 (2)	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる			○	42.3	49.6	55.1	22.4	20.0	14.9
8 (3)	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる			○	28.7	35.6	39.2	1.8	1.7	1.4

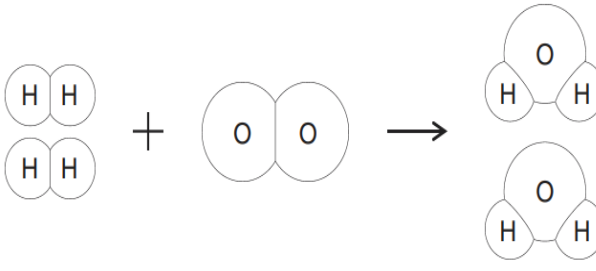
※下線部(通過率) …全国で正答率が70%以上の正答率で、本市も70%を超えているもの

【考察】

- 正答率が、府平均より6ポイント低い。
- 通過率が、3問中0問である。
- 記述式において、対府比が低い。
- 記述式における無解答率が、高い。
- 観測データと天気図を関連付けて、天気の変化を分析する設問では、全国や府の正答率と近い数値である。
- 数学同様、多くの課題がみられた。対府比からもわかるように、ほとんどの項目で0.1ポイント以上低くなっている。大きな課題としては、通過率が0%ということである。基本的な知識・技能の習得を強化する必要があると考えられる。
- 5(3)の記述式では、無解答率が42.7%と非常に高い。内容は、数学的な見方が必要な設問となっており、数学の正答率の低さが理科にも影響していると考えられる。
- 小学校同様に、課題解決型の学習指導を展開して、主体的に学ぶ力を育成することが課題となっている。

【課題の見られた設問】

◆問題番号【3 (1)】



(1) 水素の燃焼の化学反応式を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

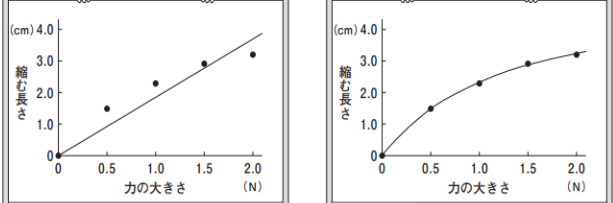
ア  $4\text{H} + 2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$   
 イ  $\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{O}$   
 ウ  $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$   
 エ  $\text{H}_4 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_4\text{O}_2$

(↑) 化学反応式の係数について正しく表すことができていないと考えられる。  
 設問でもあるように、モデル図を可視化して学習を進めることが大切である。

◆問題番号【5 (3)】

グループで個人の考察を検討している場面

「グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。」  
 「グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。」



測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分を参考にして書きなさい。


(↑) 妥当性を高めるための実験の計画を立てることができていないと考えられる。  
 普段の学習指導から、数値や範囲等に注目して実験を行うことが大切である。

【成果の見られた設問】

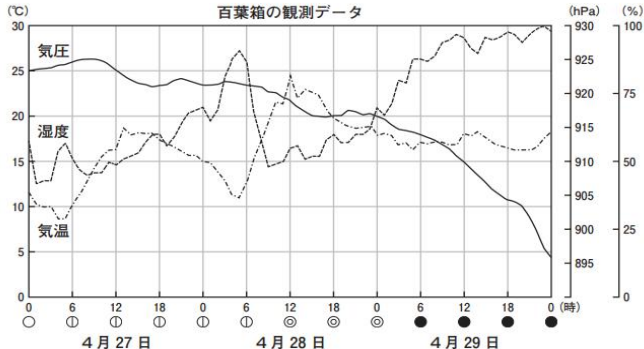
◆ 問題番号【2 (2)】

西の空のようすと観測データを関連付けて考察する場面

<4月27日13時 晴れ>   <4月28日13時 くもり>   <4月29日13時 雨>

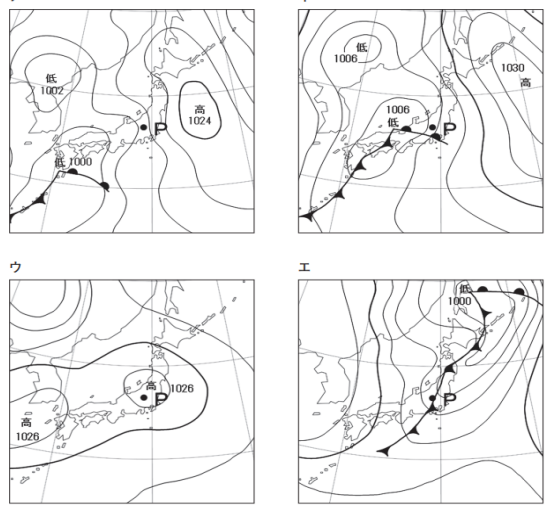


気圧 (hPa)   湿度 (%)   気温 (°C)



百葉箱の観測データ

(2) 4月29日12時の天気図として最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



(↑) 府や全国の正答率とあまり差は見られなかったが、誤答として「エ」を選択する生徒が多く、前線に関する知識の習得が必要である。

◆ 問題番号【1 (1)】

ノートの一部

【タッチパネルについて調べたこと】

タッチパネルは、液晶画面と表面の保護ガラスとの間に静電気を発生させている。

図のように保護ガラスに触れると静電気のようにすが変化し、その変化をセンサーが読み取り、画面上の位置が分かる。

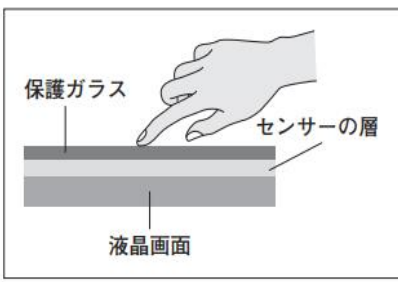


図 タッチパネルの模式図(断面)

(1) 日常生活の動作の中で、物体が静電気を帯びるものとして最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 手で地面に触れる。
- イ プラスチック製のものさしを布でこする。
- ウ カギ穴にカギをさす。
- エ 金属製のドアノブに触れる。

(←) 静電気に関する知識と日常生活での経験が結びつくことが大切である。誤答としては、放電の現象である「エ」を選択する生徒が多く見られた。

## 生活習慣や意識に関する調査（児童生徒質問紙調査）の結果 ※一部抜粋

\* 泉南市の特長がわかる質問事項から一部抜粋しています。

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
自分には、よいところがあると思いますか	75.8	78.3	79.3	77.9	75.2	78.5
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	84.4	84.7	87.2	85.7	84.9	86.6
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	70.6	70.2	72.5	69.1	67.3	67.1
人が困っているときは、進んで助けていますか	90.8	87.9	88.9	86.5	86.6	88.4
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	68.8	70.7	73.5	77.2	74.5	76.9
友達と協力するのは楽しいと思いますか	95.4	93.1	94.0	93.7	92.5	93.7
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	66.5	62.6	71.1	56.5	54.5	58.5
※学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか	55.2	37.3	43.9	83.9	33.6	37.2
※学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか	31.0	19.4	22.5	35.9	19.4	17.8
※学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか	30.8	18.2	21.7	22.5	16.8	15.0
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	65.2	64.1	65.4	59.6	63.0	63.3
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	75.7	74.0	77.3	84.4	76.1	79.2
各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	68.0	68.5	72.2	70.9	65.0	67.4
自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	64.7	67.2	68.4	67.4	66.7	67.2
学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	73.6	77.0	80.1	77.7	75.2	78.7
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	75.2	75.0	78.2	74.0	72.7	74.7

- 質問事項に対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)
- ※の質問については、「ほぼ毎日」・「週3回以上」と回答した児童生徒の割合を表す。
- □囲みの数値は、府と全国を上回っているもの、波線（着色）部は、府と全国を下回っているもの

# 令和4年度学力向上の各種施策

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

### ◆教育委員会の取組

#### ICT教育環境の充実

- スマートスクール実現モデル校（樽井小学校）が旗艦校となり、ICTを活用した魅力ある授業づくりの実践を市内全域に展開
- AIドリル等を試行的に活用した自主学習の推進
- GIGA スクールサポーターやICT支援員を配置するとともに、「大阪府GIGAスクール運営支援センター」を活用し、タブレット端末やアプリを活用する際の悩みを解消するなど、ICT教育活動の円滑な実施
- 国事業を活用し、デジタル教科書を各小中学校で分担し活用



#### 加配教員の活用

- 教科は、国語、算数・数学、英語とし、体制として、単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、ティームティーチング等を推進
- 泉南中学校区に外国語指導教員を配置
- 小学校に専科指導（理科・英語・家庭科・音楽）の加配教員を配置し、児童の学習に対する興味関心を高める学習を促進



### ◆各学校の取組

#### 「めあて・課題・振り返り」を明確にした授業改善の徹底

- 児童生徒に対して、授業の「めあて・課題」を目に見える形で示し、授業の終わりには、その達成度について振り返る時間を確保
- 「何を学ぶか、そして何ができるようになったのか、どんなことをできるようにしていきたいのか」を明確にし、一人ひとりが主体的に学ぶ力を育成

#### 家庭学習の推進・工夫

- 自ら学ぶ習慣をつけるために、タブレット端末を活用した家庭学習の課題などを工夫
- タブレットドリルの活用、ならびにAIドリルの試行的実施等にあたっては、大阪府教育庁が実施する「大阪府GIGAスクール運営支援センター」を十分に活用し、家庭や学校からも直接相談できる利点を生かし、積極的な家庭学習を推進

## 学力向上の取組と「非認知能力」の育成

### ◆教育委員会の取組

#### 確かな学びを育む学校づくり推進校

- 大阪府教育庁の推進事業を活用し、「非認知能力」の育成に向けた実践を展開
- 令和4年度は、砂川小学校、一丘中学校が指定校となり、両校の取組を学校公開や報告会等を通じて、泉南市全体で共有

#### 研修会・連絡会の開催

- 泉南市の重点目標として、すべての子どもたちの「非認知能力」の育成
- 市教職員研修では、「学力テストで測れない非認知能力を学校で伸ばすために」をテーマに大学教授による講演を実施
- 各校の実践や課題について情報交換を行うため、学力向上担当者や ICT 担当者による連絡会を定期的に開催

### ◆各学校の取組

#### 幼小中一貫教育の推進

- 中学校区ごとに、幼稚園から中学校卒業までの12年間を見通した教育計画を作成
- 目指す子ども像を共有し、中学校区内で研究を進め、年に数回の全体会を開催

#### 学校活性化計画の実践と質の高い授業づくりの推進

- 市内全14校では、年間を見通して教育実践を進めるため、各校の課題に応じた「学校活性化計画」を年度当初に作成
- 本計画により各校の「授業スタンダード」を確立
- 全教職員による、質の高い授業づくりの取組推進
- 学校教育アドバイザーによる丁寧な授業づくり指導の充実



## 豊かでたくましい人間性の育成

### ◆教育委員会の取組

#### 国際化教育の推進

- J E Tプログラムを活用し、A L T(外国語指導助手)等を全小中学校に配置し、小中学校の英語教育を充実
- 英語検定試験を市内会場で実施
- 小学校外国語授業教師用マニュアル「SENNAN2020」の活用



#### 読書活動の推進

- 市立図書館との連携により、学校図書を増強を図り、読書環境を改善
- 学校司書の増員配置による学校図書館の環境整備を強化

## 調査結果の分析を受けての教育委員会の今後の方針

令和 4年度の小中学校の調査結果については、各考察のとおり、すべての教科における学習状況や生活環境等にも様々な課題がみられ、全体として改善されているとは言い難い。また、これらの課題は、各学校によっても異なっているため、それらを克服するためのきめ細かな分析や対応が必要となる。

これらのことから、各種施策も時間をかけて継続的に取り組んでいくことが重要である。なかでも、生徒指導の課題をはじめ、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導が求められており、教職員が子どもに向き合う時間を確保することが何より大切である。そこで、ICT の活用を含めた業務の効率化を更に推進させ、教職員の負担軽減のために校務支援システムの導入について、全市的に検討を行う必要がある。

また、経年分析ができる民間テストについても、他市同様に実施し、引き続き指導にいかしていきたい。

さらに、教育委員会の指導体制については、事業の増加や教育相談の増加等に対応すべく強化が必要である。

なお、これらの施策は、緊急度が高いものと思料する。

